授業　福山市立鳳中学校

研修グループ　Ｄグループ

　三原市立第三中学校

　尾道市立重井中学校

　府中市立府中明郷学園

**社会科学習指導案**

単元名

現代の民主政治と社会〜地方自治と私たち〜

日時　　令和３年11月24日（水）　第２校時

学年　　第３学年３組（女子20名，男子16名　計36名）

**単元について**

　本単元は，中学校学習指導要領第２章第２節社会の公民的分野の内容項目「C私たちと政治」の中項目「(2)民主政治と政治参加」の内容に基づいている。本単元は，個人の尊重と法の支配，民主主義など，法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に，民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現することを通して，地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することを主なねらいとしている。これまでの公民の学習では，現代社会にみえる変化とその課題や対立と合意，効率と公正の考え方，日本国憲法の基本原則をはじめ，憲法によって保障されている基本的人権や憲法に基づく政治について学習している。本単元では，現代社会において行われている政治を学習する。国の政治の仕組みや世論の形成，地方自治のあり方について学習を進めていく中で，生徒一人一人の政治への関心を高めると共に，主権者であるという自覚を深め，主体的に政治に参画する意義を理解させることのできる単元である。

　その中でも，特に「地方自治」では，地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力があって実現するものであり，住民自治を基本とする地方自治の考え方が，地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であるという理解を基に，地域社会への関心を高め，地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることを主なねらいとしている。

　現在，地方自治体を取り巻く状況は，少子高齢化，情報化，グローバル化，経済の変動などにより急速に変化している。また，各地方自治体は，財政の健全化や組織の改編，市町村合併等の新しい枠組みづくりに取り組んでいる。さらに，子育て支援や防災対策，福祉，教育の充実など多岐にわたる社会問題に着実に対応しつつ，活力ある豊かな地域づくりに向けた取組を，住民主体へと移行していくことが欠かせなくなっている。そのため，誰もが安心して豊かに幸せに暮らすことのできる地域をつくる住民として，様々な地域の課題を解決しようとする態度や能力を育成することが求められている。

　そこで，本単元では，第一次に福山市の現状から課題を考える活動を通して，「私たちはどのように政治に関わっていくべきだろう」という単元を貫く学習課題を設定し，第二次・第三次・第四次に国の政治の仕組みや世論の形成，「民主主義の学校」とされる地方自治の基本的な考え方や仕組みを学習した後に，第五次によりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を主体的に追究できるようにする。そして第六次にこれまでの学習を総括していく。一人の主権者として，また福山市で生活する住民の一人としての自覚を持ち，地域づくりに積極的に関わっていく態度や能力を育てることを実践することのできる単元である。

**生徒の実態**

　活発で積極的に発言できる生徒が多く，普段の授業の中でも多様な意見が出るクラスである。表現することに消極的な生徒もいるが，発言やワークシートなどそれぞれの方法で自分の考えを表現するように声をかけている。

　１学期の授業アンケートによれば，「社会科を学んでいて面白いと感じましたか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は64.7%（22名）だった。その場面には，「みんなで話し合っている時」「振り返った時に知識として定着していることに気づいた時」「自分がこれまで分からなかったことを知れた時」「自分でくわしく調べる時」などの意見があった。この結果から，日々の協働的な学習の中で，半分以上の生徒が知識を習得・活用したり，思考を深めたりすることによって面白さを感じていることが分かる。

　一方で，本単元に関するアンケートによれば，A「福山市の政治に関心がありますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は38.2%（13名），B「将来,福山市の政治に関わりたいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は32.4%（11名）であった。この結果から，多くの生徒が自分の住んでいる地域の政治に関心を持っておらず，今後も消極的な姿勢をみせていくことが分かる。その理由には，「政治は自分には難しい」「政治といわれてもピンとこない」「政治はよく分からない」といった意見がほとんどであり，政治への無関心や政治に対する知識の不足が考えられる。選挙に行くことや議員に立候補することだけが，政治に関わることと捉えている生徒も多い。

　以上より，生徒は社会的な知識を習得・活用したり，思考を深めたりして教科特有の面白さを感じているが，たとえ自分の住んでいる地域であっても，政治となると，実生活とつなげて考えていくことが難しく，消極的である。したがって，まず政治とは何をさすのか全体で大まかに共有した上で，選挙に行くこと，議員に立候補することだけが政治参加の方法ではなく，情報を収集し，課題解決に向けて自らが考え，提案することもその１つであることに気づく必要がある。政治参加が中学生の自分たちにも容易にできるものだと分かれば，今後の政治への関わり方が変わっていくのではないかと考える。



 Ａ　福山市の政治に関心がありますか 　　Ｂ　将来，福山市の政治に関わりたいと思いますか

**単元の指導**

本単元は，第一次を「つかむ」，第二次・第三次・第四次を「深める」，第五次を「活用する」，第六次を「まとめる」といった三段階の学習活動で構成する。その中でも，第五次の過ごしやすい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を考える場面では，様々な資料を適切に選択させ，情報を正確に捉えさせ，様々な側面（政治，経済，人権，国際，観光など）と立場 （若者世代，子育て世代，高齢者，障がい者など）から考えさせることで，多面的・多角的に考察させる。そして，グループで政策や歳出のあり方を話し合う場面では，「効果的で無駄がないか」という「効率」の視点と，「公平で特定の人だけが不利益になっていないか，多くの市民が納得する資金の使い方か」という「公正」の視点を持ちながら，協働的な学習を通して優先される政策を追究し，自分の考えを適切に表現する態度と能力を育てる。

　本単元では，ワークシートを用意し，図・グラフ・映像資料など多様な資料を読み取る学習を設定し，自分の考えをワークシートにまとめさせたり，グループで話し合わせたりする活動を通して，多面的・多角的に考察し，自分の意見を他者に伝える一方で，他者の意見を聞いて学ぶなど協働的な学習の中で思考や知識が深まるようにする。特にグループでの話し合い活動の中では，お互いの主張を聞きながら，多面的・多角的に考えさせることで，複数の根拠に基づいて判断をするように指導している。また，主体的・協働的な学習を行うためには，生徒が学習内容に関心をもち，自分の考えをもった上でできるようにすることが大切である。したがって，主体的・協働的な学習を実現させるために，本単元の中で第一次から第六次までの段階的な手だてを設定することで，様々な側面や立場から多面的・多角的な考察を行って，その上でよりよい町をつくるために優先される政策や歳出のあり方について，生徒一人一人が公正に判断し，その理由を説明できるようにする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 次 | 主体的・協働的な学習のための手だて | ねらい |
| 第一次 | ①『福山市の現状と問題点』（福山市HPより）から課題を考えたり，自分が住んでいて感じる課題を連想したりして，グループでより多くの意見を挙げる。**（Googleジャムボードの活用）** | 福山市の現状や課題に興味を持ち，学習意欲を高める。 |
| ②『福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート』（福山市HPより）から課題を見つける。 | 自分とは異なる視点や立場の住民の声を知り，よりよい町になることや市民が町づくりについて考えることのできる機会をつくることの必要性を感じることで，単元を貫く問いを追究する動機づけを行う。 |
| ③単元を貫く問いについて予想をワークシートに記述させる。 | 自分なりの予想を立てることで，主体的に学習できるように促す。 |
| 第二次 | ④委員会や生徒総会など身近な事例から，民主主義を　連想させる。 | 政治が身近なものであることに気づき，よりよい町になるために，中学生でも主権者としてできることがあるという意識を育てる。 |
| ⑤日本の投票率を上げるために，投票率の高い国の選挙に向けた取組を調べさせる。 | 投票率が高い国の事情を確認することで，投票が権利であることの意味や政治に関心をもつことの必要性を感じ，単元を貫く問いを追究する意欲を高める。  |
| 第三次 | ⑥学校給食に関する法律を知り，その法律がつくられるまでの過程を調べさせる。 | 人権を守るために，国会で法律がつくられることに気づき，単元を貫く問いを追究する意欲を高める。 |
| 第四次 | ⑦動画『地域のことは誰が決めるの？』（NHK for schoolより）を視聴して，地方自治の考え方を理解させる。 | よりよい町になるには一人一人がその町をつくろうとする気持ちや行動（住民の声）が大切であることに気づき，単元を貫く問いを追究する意欲を高める。 |
| 第五次 | ⑧よりよい町になるために優先する課題をグループで協議し，合意を形成させる。その際，様々な側面や立場から考えさせる。  | 多様な考え方を知り，他者との協働的な学習の中でよりよい町のあり方を追究することで，合意形成に主体的に関わらせる。  |
| ⑨グループで１つに絞った課題に対して，よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を検討し，提案させる。**（Googleスライドの活用）** | 最終的なグループの判断を複数の理由を挙げながら説明させることで，公正に判断する力を育成し，学習の成果を自覚させる。  |
| ⑩住民の意見を聞き，よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を再検討し，再提案させる。**（Googleスライド，Googleフォームの活用）** | よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を再検討させることで，追究する意欲を高め，主体的な学習態度を引き出す。 |
| 第六次 | ⑪単元を貫く問いについて，これまでの授業を振り返り，自分ができることを含めて単元のまとめをワークシートに記述させる。  | これまでの授業で学んだことを総括させるともに,自治意識を高め，主権者として主体的・協働的に地域づくりに参加する意欲を高めさせる。  |

**単元の目標**

◯我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割，議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方

について理解することができる。また住民自治を基本とした地方自治の考え方や仕組み，地方財政の財源やその

変化を理解することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　 　【知識及び技能】

◯対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の

形成，選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。

【思考力，判断力，表現力等】

◯民主政治と政治参加について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関ろうとして　　いる。

【学びに向かう力，人間性等】

**単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア知識・技能 | イ思考・判断・表現 | ウ主体的に学習に取り組む態度 |
| ①国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。②議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解している。③国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。④住民自治を基本とした地方自治の考え方や仕組み，地方財政の財源やその変化を理解している。 | ①対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成，選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。②よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方について，様々な側面や立場から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 | ①民主政治と政治参加について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関ろうとしている。②よりよい町をつくることに関心を持ち，そのために必要な政策や歳出のあり方について，主体的に追究しようとしている。 |

**指導と評価の計画（全24時間）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（◯…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学習内容 | 知・技 | 思・判・表 | 主体的態度 | 評価規準 | 評価方法 |
| 第一次**つかむ** | １ | 『福山市の現状と問題点』から課題を見つけ，単元を貫く問いについて予想をたて，単元の学習に関する見通しをもつ。**【単元を貫く問い（予想の例）】**・選挙に参加して自分の意見を伝えていく。（他人事にせず，自分事として考える）・一人一人の意見を尊重して，問題点を改善していく。　　・政治的差別をなくす。 |  |  | **【単元を貫く問い】私たちはどのように政治に関わっていくべきなのだろう。**● | **【本質的な問い】なぜ私たちにとって政治は必要なのだろう。**民主政治と政治参加について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関ろうとしている。【ウ−①】 | 観察ジャムボード学びの足跡 |
| 第二次**深める** | ２ | 民主主義の考え方とその運用を理解する。 | ● | **【小単元を貫く問い】社会の課題を解決するために，私たちはどのように情報を入手し，判断して物事を決めるべきなのだろう。** |  | 絶対王政の風刺画とリンカーンの演説を読み取り，比較することで，民主主義の考え方，多数決の原理とその運用の在り方について理解している。【ア−②】 | 観察ワークシート |
| ３ | 選挙の意義と仕組みを理解する。 | ● |  |  | 選挙の意義と我が国の選挙制度のあらましについて理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| ４ | 民主政治における政党の役割とマスメディアの役割を理解する。 | ● |  |  | 様々な政党の違いに着目し，政党の役割を理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| ５ | 選挙の課題を調べ，投票率が高ければよいのか考える。 |  | ● |  | 投票率の高い国の選挙制度に着目し，民主政治の推進と，国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。【イ−①】 | 観察ワークシート |
| ６**【小単元を貫く問い】社会の課題を解決するために，私たちはどのように国の政治に関わるべきなのだろう。****【小単元を貫く問い（まとめの例）】**テレビや新聞，雑誌などマスメディアだけでなく，最近はインターネットからも私たちは情報を手に入れることができる。その際，誰がその情報を流しているのか確認し，正しいものか判断したり，その情報と実情を比較したりすることが大切である。その中で政党も政治の動きや政策を私たちに知らせる働きをしている。一人一人の権利を守るために少数派の意見も尊重しながら，みんなで物事を決めるべきである。 | 小単元を貫く問いについて，自分なりにまとめる。 | ◯ | ● |  | 政党の役割をマスメディアとの関連の中で理解している。【ア—①】民主主義の考え方，多数決の原理とその運用の在り方について理解している。【ア−②】民主主義に着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成，選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。【イ−①】 | 観察学びの足跡 |
| 第三次**深める** | ７ | 国会の地位と仕組みを理解し，二院制が採用される理由を考える。 | ● |  |  | 憲法に明記される国会の地位と仕組みを理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| ８ | 身近な事例から国会の仕事に関心を持ち，法律や予算ができる過程をまとめる。 | ● |  |  | 法律や予算をつくる過程を実演することで国会の仕事を理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| ９ | 内閣の仕事と，国会との関係を理解する。 | ● |  |  | 大統領制と比較することで，内閣の仕事や議院内閣制の仕組みを理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| 10 | 大きな政府と小さな政府のどちらがよいのか考える。 | ◯ | ◯ |  | 内閣の働きの変化の中で，行政改革や規制緩和の動きが進むことについて理解している。【ア−①】対立と合意，効率と公正に着目して，民主政治の推進と国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。【イ−①】 | 観察ワークシート |
| 11 | 裁判所の仕組みと働きを理解する。 | ● |  |  | 三審制を採用するなど裁判所の仕組みと働きを理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| 12 | 裁判によって守られている人権について，裁判の種類を調べることを通して理解する。 | ● |  |  | 国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。【ア−③】 | ワークシート |
| 13 | 裁判員制度に関心を持ち，模擬裁判を行う。 | ● |  | ◯ | 模擬裁判を通して，国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることを体験的に理解している。【ア−③】民主政治と政治参加について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関ろうとしている。【ウ−①】 | 観察学びの足跡 |
| 14 | 国会・内閣・裁判所の三権の関係を理解する。 | ● |  |  | 三権が互いに抑制し合い，均衡を保つことで国民の人権を守っていることを理解している。【ア−①】 | 観察ワークシート |
| 15**【小単元を貫く問い（まとめの例）】**日本では国会が「立法権」，内閣が「行政権」，裁判所が「司法権」を持っている。権力を３つの機関に分けてそれぞれで仕事を行う中で，互いに抑制し合い，バランスを保つことで，行き過ぎを防ぎ，私たちの権利を守っている。そして私たちは国会議員を選挙で選んだり，世論をぶつけて政策の良し悪しを指摘したり，最高裁判所の裁判長として問題がないかを審査したりしてそれぞれの権力を中心になって動かしている。このように主権者として政治に参加する権利はあるが，このことを知らなかったり，放棄したりすることがあれば自由や平等が侵害される恐れがあって生きづらい社会になってしまうので，責任を持って選挙に行き，任せたいと思える立候補者に投票すること，世の中で起きている問題に対して自分の考えを持つことに努めるべきである。 | 小単元を貫く問いについて，自分なりにまとめる。 | ◯ | ● |  | 我が国の民主政治の仕組みのあらましを理解している。【ア−①】国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。【ア−③】個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成，選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。【イ−①】 | 観察 |
| 第四次**深める** | 16**【小単元を貫く問い】社会の課題を解決するために，私たちはどのように地方の政治に関わるべきなのだろう。** | 地方自治の考え方と仕組みを理解する。 | ● |  |  | 住民自治を基本とした地方自治の考え方や仕組みを理解している。【ア−④】 | 観察ワークシート |
| 17 | 地方財政の財源と変化を理解する。 | ● |  |  | 地方財政の財源やその変化を諸資料から読み取ることを通して理解している。【ア−④】 | 観察ワークシート |
| 18 | 小単元を貫く問いについて，自分なりにまとめる。 | ◯ | ● |  | 住民自治を基本とした地方自治の考え方や仕組み，地方財政の財源やその変化を理解している。【ア−④】個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成，選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。【イ−①】**【小単元を貫く問い（まとめの例）】**地方公共団体が学校や道路の設置，ごみの収集など私たちの生活に密着したことを行っているが，私たちは18歳になったらその長を選挙で選んだり，直接請求権に基づく住民投票で政策に対する意思を表すことができたりして，自分たちにとってよりよい町を目指すことができるので，地域に関心を持って行動していくことが大切である。中学生の間にボランティアに参加したり，地域の課題に目を向けて解決策を考えたりして自分たちの地域を自分たちでつくりあげていくように意識して過ごしたい。 | 観察学びの足跡 |
| 第五次**活用する** | 19**【小単元を貫く問い】よりよい町（福山市）になるために，どのような政策や歳出のあり方が必要になるだろう。** | グループで優先する課題を協議する。また，その課題を解決するために必要な政策や歳出のあり方を検討し，提案方法を考える。 |  | ● | ● | よりよい町をつくるために必要な歳出のうち，課題の解決につながる項目を見直したり，政策ついて様々な側面や立場から多面的・多角的に考察したりして，その過程や結果を適切に表現している。【イ−②】よりよい町をつくることに関心を持ち，そのために必要な政策や歳出のあり方について，他者の意見に共感・批判して主体的に追究しようとしている。【ウ−②】 | 観察スライド学びの足跡 |
| 20 | グループで課題を解決するために，必要な政策と歳出のあり方を提案する。 |  | ● |  | よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方について，様々な側面や立場から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を分かりやすく説明している。【イ−②】 | 観察ワークシートスライド学びの足跡 |
| 21 | グループで政策や歳出のあり方を再検討する。【本時】 |  | ● |  | よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方について，様々な側面や立場から多面的・多角的に再考し，その過程や結果を適切に表現している。【イ−②】 | 観察ワークシートスライド学びの足跡 |
| 22 | グループで課題を解決するための，政策や歳出のあり方を再提案する。 |  | ● |  | よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方について，様々な側面や立場から多面的・多角的に再考し，その過程や結果を適切に表現している。【イ−②】 | 観察スライド学びの足跡 |
| 23 | 小単元を貫く問いについて，自分なりにまとめる。 |  | ○ | ○ | よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方について，様々な側面や立場から多面的・多角的に再考し，その過程や結果を適切に表現している。【イ−②】よりよい町をつくることに関心を持ち，そのために必要な政策や歳出のあり方について，他者の意見に共感・批判して主体的に追究しようとしている。【ウ−②】 | 観察スライド学びの足跡 |
| 第六次**まとめる** | 24 | 単元を貫く問いについて，これまでの授業を振り返り，自分ができることを含めて単元のまとめを行う。**【単元を貫く問い（まとめの例）】**・私達の意見が政治により多く反映されることが基本になる。私達ができることはまず福山市の政治について知ること，18歳になったら選挙に行くことである。私達が政治に積極的に参加することも福山市が住みやすくなるための鍵だと考えた。・主権である私達国民（住民）が住む地域がよりよくなるように地方公共団体に提案するためには，まず自分たちの住む地域の現状を調べていいところや課題を把握することが大切である。・国の重要事を決める機関は，国民の意見を大切にして事柄を決めていき，私達国民は身近なものから日本の政治について知っていき，選挙やボランティア活動などに積極的に参加する習慣をつけるべきである。また裁判員制度ができたことで，主権者である国民の意見が取り入れられるので，選ばれたら責任を持って務めるべきである。・国も同じだけど，まずは住んでいる市や町の活動を調べて知ったり，ボランティア活動に参加してみたりすることが大切で，若者から高齢者まで幅広い世代のことを考えながら福山市民として私達が意見を出して行動していかないといけない。**【評価問題の解答（例）】**問１・18歳になったら選挙に参加し，投票することができるので，交通渋滞を解決する公約を掲げる人に投票すればいい。・解決策を地方公共団体に提案したり，広めてもらったりすればいい。・住民投票を行い，その課題を首長などに伝え，改善に向けて動いてもらう。・署名を集め，条例を作成する動きをつくる。・市民としてインターネットを通じて自転車や徒歩を使うことを勧めていく。問２（ア）もともとそこに住んでいる人に立ち退きを求める可能性があり，経済活動の自由を侵害することになる。（イ）自動車の走行速度が上がり，交通事故が多発する恐れがある。（ウ）反対側の車線で交通渋滞が起こる可能性がある。（エ）足が不自由な人たちは移動が不便となり，体により負担がかかる。問３・今はコロナの感染者情報を知るために福山市のHPや公式LINEを見る人が多いと思うので，それを活かして「マイルズ」というアプリを紹介したり，渋滞解消の手段について発信するのがよいと思います。※マイルズとは，自動車，電車，自転車，徒歩など全ての移動でマイルを獲得できるアプリ。貯まったマイルは商品やギフトカードなど交換できる。徒歩や自転車より自動車はマイルが少ない。・様々な立場や世代の人が集まるので，国道２号の渋滞の現状やエコ通勤のメリットをまとめたポスターを作成し福山市役所や公民館に掲示してもらう。・地域で賛成してもらわないと全体で反対される可能性があるので，まずは地域の回覧板を利用して国道２号の渋滞の現状や自分たちの提案をまとめたものを知ってもらう。 |  | ○ | ○ | 対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成，選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し表現している。【イ−①】民主政治と政治参加について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関ろうとしている。【ウ−①】 | 観察学びの足跡**【評価問題（例）】**Ａ班は実際に自分たちの住むまちに興味をもち,福山市のWEBアンケートから多くの市民が「国道２号には課題がある」と感じていることを知りました。そこで,交通渋滞を解決して町を変えたいと思い,次の解決策（ア）〜（エ）を考えました。（ア） 国道２号のバイパス道路をつくる。　（イ） 国道２号の信号の数を減らす。（ウ） 国道２号にリバーシブルレーンを運用する。（エ） 自動車にたよらず，徒歩や自転車を使うようにする。問１　（ア）～（エ）の解決策を実現させるためには,どのようにすればよいとアドバイスをしますか。政治参加の方法を明らかにして,簡単に説明しなさい。問２　（ア）〜（エ）の解決策のうち,どれか１つを選び，そのデメリットを簡単に説明しなさい。問３　課題意識から解決策までＡ班の考えに賛成するならば,より多くの世論を動かすために,福山市民に対して,あなたはどのように働きかけますか。発信する手段を明確にして説明しなさい。 |

**本時の学習**

（１）本時の目標

指摘を踏まえ，よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を再考し，表現することができる。

（２）本時の学習展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意事項（◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て） | 評価規準（評価方法） | ICTの活用（〇：活用方法，●：評価方法） |
| １　既習事項の定着度を確認する。２　前時を振り返り，指摘を確認する。 |
| ・地方自治について穴埋め形式や記述形式などの問題に取り組む。・前時を振り返る。・各グループで自分たちの提案内容に対する指摘を確認する。 | 問題を作成する担当のグループは代表者を決め，授業開始前に黒板に書いておくよう促す。**自分たちの提案内容を，****住民はどのように受け止めたのだろう。**住民（クラスの生徒，保護者や教師，地域の方など）からの指摘を用紙１枚程度にまとめて各グループに渡し，確認させる。**よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を再考しよう！！** |  | ○各グループのGoogleスライドを確認する。○保護者の指摘をGoogleフォームで確認する。 |
| ３　学習課題を設定し，本時の流れを確認する。 |
| ・各グループで指摘を丁寧にまとめ，自分たちの提案内容を見直す。 | よりよい町をつくるために必要な政策や歳出のあり方を再考し，表現し直すことが本時のゴールであることを伝える。 |  |  |
| ４　提案内容を再考し，表現する。 |
| ・各グループの気づきを全体で共有する。・個人で政策や歳出のあり方について再検討する。・個人の考えを各グループでホワイトボードを使って共有し，どれが適切か話し合って決める。**〈予想される生徒の発言〉**アプリの活用は時間の面で効率がいいけど，携帯電話に慣れていない人には難しいので公正とはいえないかもしれない。・各グループで必要な政策や歳出のあり方を表現し直す。 | 板書をして視覚化することで，自分たちの提案にもあてはまるのではないかと疑い，政策や歳出のあり方を再考する必要性を高める。◆政策や歳出についてイメージすることが難しい生徒には，他の地方自治体を参考にし，イメージを持つよう指導する。「効率・公正」「持続可能性」のカードを使ってメリットやデメリットを明らかにした上で考えたことに優先順位をつけ，適切かどうか判断するように促す。グループ内で役割分担をして作業を進めるよう促す。 | どのような立場の人にどのような面から有益な政策や歳出のあり方なのか再考し，その過程や結果を適切に表現している。（ワークシート，スライド）【イ】 | ○検索機能を使って必要な情報を集める。○検索機能を使って『福山みらい創造ビジョン』（福山市HPより）を中心に，福山市の取組を調べ，再把握する。●必要な政策や歳出のあり方といった提案内容をGoogleスライドに表現し直す。 |
| ５　本時を振り返る。 |
| ・本時を振り返り, 次時につなげる。 | 次時は再提案を行うので，それまでにグループで打ち合わせをしておくように伝える。 |  |  |